

住宅団地の合併処理浄化槽における生物相

竹田茂, 桜井敏郎

神奈川県衛生研究所衛生工学部

概 要

住宅団地の合併処理浄化槽19施設のばっ気槽に出現した生物相の実態調査を行ったところ, 出現頻度および出現個体数が多かったのは, *Aspidisca*属, *Epistylis*属, *Arcella*属および*Vorticella*属であった。また, 活性汚泥性生物の個体数が多いと処理水のBODは良くなる傾向があったが, 個体数が少なくても水質が良い場合もあった。

連続ばっ気および断続ばっ気運転により窒素, リン除去の実証比較実験を行っている施設で2年あまりにわたってばっ気槽の生物相調査を行ったところ, いずれの運転方法でも*Aspidisca*属, *Epistylis*属, *Arcella*属および*Philodina*属が優占して出現したが, それぞれの出現個体数は経日変動が大きかった。また, 断続ばっ気運転では, ばっ気と停止の時間を変える運転条件が変わった直後に*Aspidisca costata*が減少したのが特徴的であった。